

地域の埋もれた歴史をたどる

# 昭島散歩

## 五日市鉄道の歴史

明治27年(1894)、青梅鉄道の開通以来、昭島の人々は、それを利用してきたが、本村から離れていたため、不便さに変わりはなかった。そのために人々は、もつと本村に近い所に鉄道をと、懇願していた。

大正10年(1921)、五日市鉄道が創設され、大正14年(1925)4月、拝島から五日市間、昭和5年(1930)、拝島から立川間が開通した。青梅鉄道と異なり、昭島の本村のすぐ北側を通るルートであった。

駅は、拝島、南拝島、武蔵田中、大神、宮沢、南中神、武蔵福島、郷地、武蔵上野原、立川の十駅。ガソリンカーで運転され、五鉄の愛称で親しまれていた(下図参照)。  
しかし昭和19年(1944)国より突然の営業停止命令、物資が不足している時代に、青梅鉄道と平行している拝島・立川間は、無駄な路線と指定されたのである。

レールは撤去されて、兵器に変わった。廃線となった五日市鉄道は、戦争の犠牲と言えぬかも知れない。

参考「昭島の歴史」 昭島市教育委員会

## 五鉄通りを歩く

今回の散歩は、今はなき五日市鉄道の跡を、拝島駅から大神駅までの間をたどってみた。

拝島駅南口から東に歩くと、江戸街道に出る。信号を渡ると、「五日市鉄道の路線跡」の看板が見える。

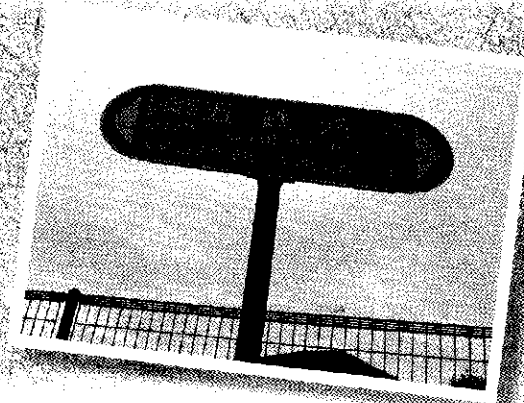
その横の道に入り南へ歩く。アップダウンのはげしい道をしばらく行くと、右側にノッポビル(コインランドリー)がある。

この道で、「五鉄通り」の看板が目につく(写真参照)。その先は、新興多摩街道である。街道は、東西に村を横切り、集落があったところだぞうだ。

「五鉄通り」は、いったん途切れるが、新興多摩街道を左に曲がり、しばらく歩き歩道橋を通過する。「市役所前」の次の信号を渡って斜めに入ると、再び「五鉄通り」に出る。

その先をしばらく歩くと「大神」の標示があり、「輪軸(車輪と車軸)」が展示され、往時をしのぶことができる(写真参照)。

そこから先は、八高線を通り切る地下道を進むとまた五鉄通りへつながる。



五日市鉄道 路線図 (昭和5年から19年まで)  
参照「昭島の歴史」

